

インドネシア
「グリーン・ウォール」の普及と拡大

現地からのお便り

2016年8月
コンサベーション・インターナショナル

モニタリングと森林再生の経過報告

木々の状態は、天候、害虫、そして人間の活動に影響を受けます。国立公園レンジャーや地元コミュニティのみなさんと続けている毎月の木々のモニタリングにより、木々が健やかに成長しているか、確認を続けています。300ヘクタールに植えられた12万本の木は、ほぼすべてよい状態で育っています。



森林の木々の様子

組織力の強化

組合活動の支援を続けています。今回は池を作り、そこに1,000匹のナマズの稚魚を放流しました！



池にナマズの稚魚を放流！

取り組みの拡大にむけて

ダイキン社の支援によるグリーンウォールプロジェクトは、すでに多くの成果を挙げています。コミュニティが恩恵を受けることができる将来性のある保全活動であることを多くの方々に伝えて、他の地域での活動に参加してくれる新たなパートナーを探しています。5月にはインドネシアの Multi Bintang Indonesia 社（ハイネケンの子会社）が、コミュニティ主導型の森林再生プログラムの支援を開始し、記念植樹を行いました。



Multi Bintang Indonesia 社とのプロジェクト開始を祝うイベント

メディアキャンペーンとコミュニケーションの強化

4月から6月までの間に、4つの小学校で環境教育をしました。それぞれの小学校に、およそ50人の生徒が参加しました。コミュニティ向けに行った普及啓発活動にも50名ほどが参加しました。



小学校での環境教育



コミュニティでの啓蒙活動

2月にダイキンインドネシアから2名が訪問されましたが、それに続いて8月6日には、ダイキンインドネシアの全スタッフにグリーンウォールプロジェクトを紹介するイベントが計

画されています。その準備のために、ダイキンのスタッフの方が何度もプロジェクトサイトを訪問しています。



ダイキンインドネシアの方々

2012年にグリーンウォールプロジェクトのサイトを訪れた写真家であるジェシカ・スクラントンが、再訪してくれました。前回のときと同じ場所で同じ人物の写真を撮り、変化したものに変化していないものを対比させた記事、そして、グヌングデ・パングランゴ国立公園の森と大都市ジャカルタをつなぐ記事を書いています。ぜひこちらを読んでみてください。

<http://blog.conservation.org/2016/05/before-and-after-in-four-short-years-new-forest-takes-root/> (2012年と2016年の比較、現在英語のみ)

<http://ci-japan.blogspot.jp/2016/06/blog-post.html> (森から大都市へ 川がつなぐ物語、日本語訳)

看板

プロジェクトサイトの看板を、毎月モニタリングしています。1枚を5月に修理しました。今は、4枚ともすべて問題ない状態です。



看板を修理中



2016年4月



2016年5月
看板一号



2016年6月



2016年4月



2016年5月
看板二号



2016年6月



2016年4月



2016年5月
看板三号



2016年6月



2016年4月



2016年5月
看板四号



2016年6月

森林再生地で見られる動物たち

カメラトラップを用いて、森林再生地を生息地として使い始めている動物の調査を続けます。25種類の鳥類と5種類の哺乳類の撮影に成功しました。



ジャワジャコウネコ
Paradoxurus hermaphroditus



ベンガルヤマネコ
Prionailurus bengalensis



カニクイザル
Macaca fascicularis



イノシシ
Sus Scrofa



ホエジカ
Muntiacus muntjac

※画像および文章の無断転用はご遠慮ください。